

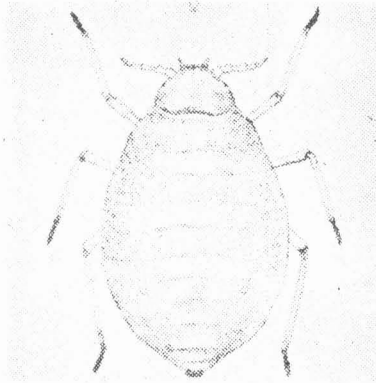
琉球大学学術リポジトリ

アブラムシとテントウムシ

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 鉄夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19560

アブラムシと テントウムシ

アブラムシは非常に種類が多く、その加害植物も雑多である。どの種類でも口を植物体内にさしこみ、その汁液を吸収するもので特に発育の盛んな部分に寄生する。そのため植物は著しく成長を害され、発生の甚しい時は枯死するようになる。アブラムシの中で加害の著しいものはワタアブラムシである。この書出は熱帯、亜熱帯、温帯に広く分布するもので、何れの地方でも甘蔗の重要害虫として知られている。特に繁殖の盛んな時期には一葉に二〇〇―四〇〇匹も群生する。



甘蔗のワタアブラムシ

アブラムシの生活はアリと密接な関係がある。即ちアブラムシの排泄物中には甘い多くの蜜が入っている。

この蜜汁はアリの好むものであり、これを食べて生活をする。そこでアリはより多くの蜜汁を得るために、アブラムシを成長の盛んな作物に移してその繁殖を助ける。これが為め短日時の間に広く伝播する事になる。一方この蜜汁はスズ病を誘発するので、アブラムシの発生の著しい作物には大抵スズ病が見られる。

アブラムシ類の繁殖は環境条件に影響されることが大きい。温暖な候が続き、しかも降雨が少く、食物が豊富である場合は処女生殖といつて一種特別の繁殖法を行う。即ち高等の動物や他の多くの昆虫(むし)ではメスだけで繁殖することはできないが、アブラムシのメスはオスに接することなく成虫(親むし)になるとひとりて四〇―七〇余の幼虫(子むし)を生む。これらの幼虫も成虫になるとオスに接することなく、どしどし「産めよ増せよ」を繰り返して産み出される子虫はすべてメスで、オスは一匹もいない。オスの必要がないからである。このように環境に恵まれた期間に処女生殖を繰り返すもので、六ヶ月後には地球を一周する位に増殖するのであるという学者もいる。葉裏に群生しているアブラムシ特に野薔薇類のあぶらむしを御覧なさい。三〇分位見つめると、その中の成虫がメスの子むしを産む状況が見られる。

若し環境が不利になると、はじめてオスを産みメスとオスが交尾して卵を産む。再び環境に恵まれると卵はかえるが、その時産まれる子むしはすべてメスである。そして前に述べたような処女生殖を繰返す。このようにアブラムシというものは興味ある生活と繁殖法によつて著しくその数を増す。しかしながら実際には地球を取り巻く程にはならない。これは本書第一号にも述べたように、天敵というものによつて制圧されているからである。

アブラムシの天敵として小鳥、クモ、その他昆虫(むし)ではサシガメ(カメムシのある種類)、ハエの一種、カゲロウ、テントウムシなどがあげられる。その中テントウムシ類は成虫幼虫ともにアブラムシを捕食する。琉球に産するテントウムシの中、ナナホシテントウ、オオテントウ、ナミテントウ、ヒメアカホシテントウ等は普通に見られる。オオテントウは幼虫時代(一週間―二週間)に甘蔗のワタアブラムシを七〇〇匹内外成虫時代(四〇―八五日)に二〇、〇〇〇を捕食するらしく、ナミテントウは幼虫時代に野薔薇のアブラムシを八〇〇―一、二〇〇匹余、成虫時代に三、〇〇〇―四、〇〇〇匹、ナナホシテ

ントウは同じく幼虫時代に約二、〇〇〇匹、成虫時代は一層夜で八〇匹内外を捕食するようである。オオテントウは殊に年間世代数が多く、貧食であり、又成虫の存命期間が比較的長く活動が活潑、飼育が比較的容易、冬の冷感にたえる等の点から、最も有力な天敵とされている。しかしながら圃場におけるワタアブラムシの発生状況と一致しない時期がある。即ちワタアブラムシの発生が最盛期に近づくに従い、オオテントウは漸く出現し、ワタアブラムシの発生が下り坂になるに従いオオテントウの発生が最大となる傾向がある。従つて自然のままではアブラムシによる被害は避け得られない場面がある。オオテントウの産卵期、ふ化率、幼虫の発育状態が気温によつて支配されることはその原因の一つであらう。

(富良野 夫)



読者だより

「百姓には学問は要らない。」とか、「中学校で農業の時間は別の学科に割愛して欲しい。農業は家で教える、鍛える」と。その為めに生徒も農業実習を徒勞と考え、嫌悪する。戦前よりも荒れ果てて雑草は繁茂し、蔬菜は黄色い葉で栄養不良の野原見たいな畑があると、例外なくこゝは学校の農場である。えて農業の先生はいみじくもわかれたものであり、農林出身の方がサラリーマンにあてがれて方向違いの勤務をしているのも少しとせない。戦後は特に甚しいように思う。

「考える農民」の養成、従来の経験を主にした農業でなしに、科学的農業経営、農家経営をさせるべく、此の「農家便り」は暗夜に光明を与えるもので内容も実に豊富であり、平易で読み易い。実に素晴らしい「農民の友」と推賞致します。

(小塚中学校長・平良利雄)

人口密度が高く農耕地の狭隘な沖縄農民にとつては旧農法を